

### コミュニティについて

僕が大切に思うコミュニティは家族だと思う。その大切さが少しわかったのは昨年の受験期である。父親と進路の話をよくしていた。将来なにがしたいのか、どこの大学、何学部に行きたいかなど、僕のただ単に遊びたいからという気持ちから思いついたこじつけの短絡的な意見とはよく合わないことがあった。しかし、父が言うことは僕のことを思ってだとわかってから、少しずつ話を聞くようになった。また今ちょうど大学生である兄からも進路についていろいろなアドバイスをもらった。これから簡単に家族の紹介をする今父は定年退職して、趣味で焼肉屋を営業したり、旅行を楽しんでいる。旅行先からメールが来たりもする。母親は今小学校の先生をしておせっかいな性格なのか、心配性なのかはわからないが、とにかく、よく最近どうしているかなど大学生活のことをよく聞いてくる。兄はあほだが今大学院生で、研究室に籠って研究をしている。最近は将来のことで親と少しもめている。

### インタビュー相手について

インタビュー相手は父にしたいと思う。今回選んだコミュニティの家族のことを一番考えていると思うのでそうした。けれど、これは僕の考えであって直接聞いたわけじゃないので実際のところ家族についてどう思っているかわからない。だからという理由もある。

### インタビュー結果

インタビュー相手は結局母になった。父にも何回か聞いてみたが、やはり恥ずかしいのかそういうことは母さんにしてくれと言って、あまり話をしてくれなかった。電話でインタビュー30分程、メールで大まかな内容をインタビューした。母からもすぐには聞き出せなかったが、最近勉強してるかとか大学は楽しいかとか、一人暮らしで必要なものはないかとか家賃は払ったかとか、佐渡のおばあちゃん、おじいちゃんに連絡してるかとか無駄話をしながらやっとなら聞いた。インタビューしてから時間が経っているのであやふやな点もあります。

家族は、一番小さい単位のコミュニティかな。親は子供ができて、こうなってほしいと願いを持って育ててきたのね。出産の時は、五体満足に生まれてほしいだけでいいと思っていたけれど、だんだん欲が出ちゃってきて、小学生くらいから塾や習字、スイミングスクールとかの習い事をさせようと思ったんだ。すべて、智亮のためにといい、できる範囲でいろいろな経験をさせてきたかな。家族でいろいろなところへ旅行に出かけたのも、心豊かな人間になってほしいと思ったからかな。本当に小さいときもたくさん旅行したのを覚えている？楽しいときだけでなく、これから先、智亮に苦しいこともつらいこともきっと起こると思う。そのときは応援するし、なんでも話してほしいし、いつでも相談してほしいね。家族がいると楽しいときは、出来事が何倍も楽しくなるし、苦しい時やつらい

時はそれが半分にもそれ以下にもなる。親は、子供がいてこそ精神的にも親になれる。子供のことを思うと頑張れる。今は、智亮が大学に進学できて本当によかったと思っている。お父さんが嬉し泣いてたのはおもしろかったね。大学時代には、勉強はもちろん、それ以外にもいろいろな経験をして充実した大学生活を送ってほしい。生まれてきたときのように、今は、健康、体が自分の体が一番大事。規則正しい生活、体を考えた食事に気をつけてね。風邪引いたら、ちゃんと病院行ってね。最近あったこともたまには電話で話してね。

家族は言葉で表すなら、癒しの場、教育の場、勇気を得る場、社会の縮図。子供は親を見ては育つし、家族の話を聞いて子供が言葉を覚え、父親、母親、兄、おばちゃんと生活することによって、常識を学び、人間関係を学び、何度失敗しても、帰る所、家族があり、そこで癒されまた勇気を得て、大人になってまた社会に出て行ける事になる。

と、こんな感じの内容でした。口頭の部分は忘れてしまっているところもあります。

母が家族のことをとても思っていることがわかった。それぞれの場についてどういう意味なのかは詳しく聞けなかったが、僕なりの解釈はこんなである。母は家族を癒しの場と言っていた。実家に帰ると居心地がよかったりする。猫と一緒に横になって寝そべったりして、アパートとは違ったくつろげる場所がある。教育の場は親の背中を見て子は育つというように父親、母親を見ているとよく感じる。親自身が整理整頓が上手くないことがわかってるので、その大切さをよく耳にタコができるほど聞いた。あきらめるくらい怒られたこともある。そのうち半分はききながしているが、勇気を得る場は、僕が落ち込んだときは母は励ますし、僕が元気していると母は励まされるというようなことをよく母から聞くので、それだと思う。社会の縮図は文字通りの意味で、家族は小さな社会と表していることだと思うが、よくわからない。

#### 家族と私

これからコミュニティーをどうして行きたいかどうかにについては、一人暮らしをするようになって家族と過ごす時間はほとんどないので、家族の時間を大切にしたいと思う。この冬休みに家族と過ごしたことを書こうと思う。家族と新潟の瀬波温泉に行った。家族みんなどこかに出かけることも高校2年生のときの群馬サファリパーク以来で久しぶりだった。もちろん猫のマエシーも家族であるが、今回は病院に預けてきた。温泉に入り、兄と久しぶりに話した。兄は就職が決まり来年から社会人になる。僕と話しているときはくだらない話を中心だったが、父と話しているときは就職先のことや結婚の話をしていてどことなく大人になっていると思った。兄は最近では大学の研究室に寝泊まりしているようなので、家族と一緒に過ごすのも久しぶりのようだった。温泉を上がる前に露天風呂の方へ行き他のお客がないのを見計らって、僕たちは平泳ぎで泳いで来た。僕は兄が本当にバカ

だと思って楽しくなった。

温泉を出たあとは家族みんなで旅館の夕食を食べた。その日は僕の誕生日と父の退職約一周年を祝って乾杯した。父はあと一年して二十になったら智も一緒に飲もうな、と言った。父は自分がお酒を飲むことに関しては甘い、未成年の僕には厳しかった。また、誕生日のケーキはなかったが嬉しかった。家族みんなで食べる食事が美味しいというよりは、単に料理が美味しかったのかもしれない。その時、母が家族写真を取ろうよと言いだした。僕はその時正直別にそんなことしなくてもいいんじゃないかと思いつつ、いやいや写真を取った。しかし後になって写真を見ると取ってよかったなと思えた。夕食のときには家族といろいろ話しをした。うちで飼ってる猫のマエシーがじいさんみたいになってきたとかマエシーの家を改造しようとか、兄が仕事を始めたら家族で仕事先の横浜に遊びに行く予定も立てた。あと正月休みに親戚の佐渡のばあちゃんの家に行くことも話した。その都度行ける機会があるなら後回しにせずに行っとけよ。お前のことだから後回しにすると結局行かぬし、と兄からも言われた。凶星である。

父もばあちゃんを大切にしろよとよく言っている、父はうちのばあちゃんが元気なときにもっといろんな孝行をしておけばよかったともよく言う。父は一度ばあちゃんを花火に連れ出したことがあった。その時ばあちゃんは体もだいぶ弱り、ボケ始めてきてなぜか頑なに家から出たくないと断った。父はこれが最後になるかもしれないと思ったのか、すごい説得して最終的には半分無理やり連れて行った。往きの車の中で、ばあちゃんは花火なんか見たくないとぶつぶつ言っていた。しかしばあちゃんは花火を見ているときは楽しそうに綺麗だ、綺麗だと言っていたそうで、僕は父が無理やり連れ出した甲斐があったんじゃないかと思った。なぜ、綺麗だと言っていたそうだという表現を使うかという、花火を見ている途中から人ごみに飲まれて違うところに流されていたためである。これは書くとき長いので省略するが、結局家族と合流できたのが午後 11 時頃であった。父にばあちゃんの具合が悪くなったらどうするとかあと 10 分遅かったら本当において車で帰ろうと思っていたなど本当に怒られた。家についた頃には夜の 12 時を回っていた。

だいぶ冬休みの家族の時間の話とは、脱線してしまったがこれも家族の時間だったということでした承していただきたい。これからは長期休みには一回くらい実家に帰って家族との時間を大切にしたい

以上のように僕はこのレポートに抽象的なことをあまり書かないで、できるだけ具体的な出来事をいれて無駄なこともたくさん書いた。こんなのただのだから書いて字数を稼いでと思われるかもしれない。確かに半分はあっている。しかし、これは経験した本人にしかかけないのだ。この無駄にも思えるものも大切な思い出なのである。